

# 「シーガー使って今日も快釣」



**シーガーランドマックス FX 60m 巻 8号**  
 ◎0.3~10号まで19アイテムを用意。価格は3200~6000円

**シーガー FXR 船 100m 巻 16号**  
 ◎2~20号まで14アイテムを用意。価格は3200~8400円

## 鈴木 新太郎のワンポイントアドバイス

★「タチウオには二重構造のハリスがおすすめです。シーガーのエース、ランドマックスFX、ランドマックスに採用されていて、タチウオの歯で表面が傷付いても切れにくいのが特徴です」と鈴木さん。テンヤ仕掛けにはタチウオに噛まれた対策としてハリスの先にシーガーFXR船16号を30センチほど接続「太いので結びやすいしなやかなハリスを使っています」



**シーガーランドマックス ショックリーダー 30m 巻 24ポンド(5号)**  
 ◎1.5~6号まで9アイテムを用意。価格はオープン

**プレミアムマックス ショックリーダー 50m 巻 81.5ポンド(22号)**  
 ◎10~22号まで5アイテムを用意。価格はオープン

## 吉岡 進のワンポイントアドバイス

★「伸びが少なく感度のいいPEライン『シーガーPE X8』を使っているため、その感度を損なわないためにリーダーは硬くて感度が抜群な『シーガーランドマックスショックリーダー』を使っています。鋭い歯に噛まれたときのために、リーダーの先にバイトリーダーとして『シーガープレミアムマックスショックリーダー81.5ポンド(22号)』を結んでいます」

## エサ釣りもルアーも シーガーPE X8

★今回2人がリールに巻いてきたのが8本組の高強度&高感度PEライン「シーガーPE X8」。判別しやすいマーカークラウドで指示ダナを探るタチウオに最適。コストパフォーマンスに優れている点にも注目したい。

◎0.4~6号まで12アイテムを用意。号数により150~400mまで各種。価格はオープン



▲タチウオの活性が上がリ、テンヤでダブルヒット!



▲シーガー製品はタチウオの強い味方。安心して1メートル級も抜き上げられる



◎テンヤで釣れるタチウオは良型ぞろい

▲1本釣ったらハリスやリーダーをチェックし、傷があれば交換しよう

◎当日最大指幅6本サイズを釣り上げた吉岡さん



# Challenge #51 東京湾奥小柴出船のタチウオ

★強さに加えしなやかで耐摩耗性に優れた二重構造ハリスシーガーランドマックスFXが最適

★バイトリーダーはしなやかで太くても結びやすいシーガープレミアムマックスショックリーダーがおすすめ



▲テンヤは40号を使用  
▼メタルジグは130~160グラムを使用



▶三喜丸のエサは新鮮なコノシロ



★高品質のシーガー製品なら余裕を持ってヤリトリできる

# 釣れる釣れる釣れる

## 次回は

# 鈴木新太郎、吉岡進 テンビン、テンヤ、ルアーでタチウオを楽しむ

◎夏の好期に突入した東京湾のタチウオは、エサ、ルアーを問わず好調な釣れっぷりだ。今回は鈴木新太郎さんがテンビン

ン&テンヤ、そして吉岡進さんがジギング&テンヤという、二人が得意なスタイルで狙うタチウオ釣りの模様をお届けしよう。

▲釣り場は観音崎〜横須賀沖の水深65〜70メートル前後

**INFORMATION**  
**東京湾奥・小柴 三喜丸**  
 ☎045・701・9434  
 (詳細は巻末の情報欄参照)  
 ▶料金=タチウオ乗合一人9700円(エサ、氷付き)  
 ▶備考=7時15分出船。ルアー、テンヤの場合は事前連絡を。ほかにアジ乗合へも  
 河野 秀昭船長

釣行したのは東京湾奥小柴の三喜丸。左舷ミヨシから吉岡進さん、鈴木新太郎さんの順で並び、準備をする。鈴木さんはオモリ60号のテンビン仕掛けで、道糸は「シーガーPE X8 15号」、ハリスは「シーガーランドマックスFX 8号」を2メートル。一方の吉岡さんは、道糸が「シーガーPE X8 1号」、ハリスは「シーガーランドマックスショックリーダー 30メートル」の先に「シーガープレミアムマックスショックリーダー 81.5ポンド(22号)」を60センチ結ぶ。

8時前に観音崎沖の水深70メートル前後に到着。指示ダナは海面からで、エサは33〜40メートル、ルアーは25〜45メートルで釣り開始。ここは指幅4〜5本クラスが期待できるポイントだ。エサ釣りの鈴木さんはコノシロ、吉岡さんは100グラムのジグで開始。

吉岡さんに1投目からアタリがきて、指幅4本クラスを抜き上げる。次の投入ではフォール中のアタリをとらえて指幅4本半クラスをキャッチ。さらにフンピッチジャークで誘う吉岡さんのロッドが大きく曲がりドラッグが滑る。やがて海面下に銀色に輝く大きな魚体が浮上、指幅6本サイズを抜き上げた。タチウオ釣りは今シーズン初だった鈴木さんはやや遅れたものの、スロースタートとアタリが頻発、素早い手返しで指幅3〜4本級を中心に数をのばしていく。

11時を過ぎてアタリが遠くなる。船は横須賀沖の水深65メートル前後へ移動となり、2人はテンヤタチウオのタックルに持ち替える。鈴木さんはハリスを「シーガーランドマックスFX 8号」1メートル、その先に「シーガーFXR 16号」30センチを結ぶ。それぞれ40号のテンヤに持参したエサを付けて、海面から30〜35メートルの指示ダナでスタート。

鈴木さんはスローなシャクリのあとにじっくりエサを見せてアタリを待ち、一方の吉岡さんは速いテンポでシャクリスタイルだ。

先に合わせたのは鈴木さんで指幅5本半クラスを抜き上げた。続いて吉岡さんが指幅4本クラスをキャッチ。その後はダブルヒットする一幕もあった。やがて13時半となり沖揚がり。鈴木さんは17本、吉岡さんが12本で終了。「炭火で塩焼きにして食べるのが楽しみです」と鈴木さんは満足の様子。吉岡さんも「それはおいしそうですね。帰りに炭を買ってやってみます」と満面の笑みを浮かべて帰港となった。